



介護(認知症) 予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム

- **事業実施主体** 西九州大学リハビリテーション学部
- **事業実施代表** 上城憲司(リハビリテーション学部)
- **連携** 西九州大学地域連携センター, 佐賀大学農学部, 医学部
- **連携自治体等** 佐賀市、神崎市、吉野ヶ里町

● 教育カリキュラムの特徴

- ① 地域ニーズに合わせた調査・介入研究
- ② 研究成果を地域還元する予防事業展開
- ③ 地域住民との交流による臨床実践体験
- ④ 地域リハビリテーションシステムの理解

地域志向型教育研究テーマ

- ① 認知症疫学調査
- ② 介護(認知症) 予防事業

学生の参画

授業科目：
地域理学・作業療法学演習、卒業研究など

認知症疫学調査

心身機能の
検査



認知症予備軍の
ピックアップ

縦断
研究

介護予防事業

介護予防
プログラムの開発

認知症予防
事業の実施

比較
研究

包括的介護予防システム構築

H25年

H26年

H27年

H28年

保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム

- 事業実施主体:健康福祉学部健康栄養学科
- 事業実施代表:柳田晃良(健康栄養学科)
- 連携:健康福祉学部、リハビリテーション学部、子ども学部
西九州大学グループ地域連携センター
- 連携自治体等:神崎市、小城市

- 教育カリキュラムの特色
- ①フィールドワーク型アクティブ・ラーニング
- ②地域課題の調査研究
- ③課題解決型学習
- ④地域住民との交流
- ⑤地域住民との協働活動
- ⑥研究成果の地域への還元(提案)

●地域志向型教育研究のテーマ

- ①特定健診受診率のアップ
- ②子育て支援
- ③保健・医療・介護の充実

市、保健センター

地域
課題の
抽出

課題解決
の提案

西九州大学
健康栄養学科
健康福祉学科
リハビリテーション学部
子ども学部

協働

H26 H27 H28 H29

- ①公衆衛生学実習
- ②栄養教育論実習
- ③子ども学演習
- ④健康栄養学セミナー
- ⑤専門演習
- ⑥老年期作業療法学演習

授業科目

④各種健康教室の開催

安心して暮らせる
まちづくり

⑤⑥介護支援

医療

福祉

保健

子育て

①特定健診受診率アップ

- ②離乳食教室
- ③こどもミュージアム



「街なかサポーター」活動を通じた安心生活づくり

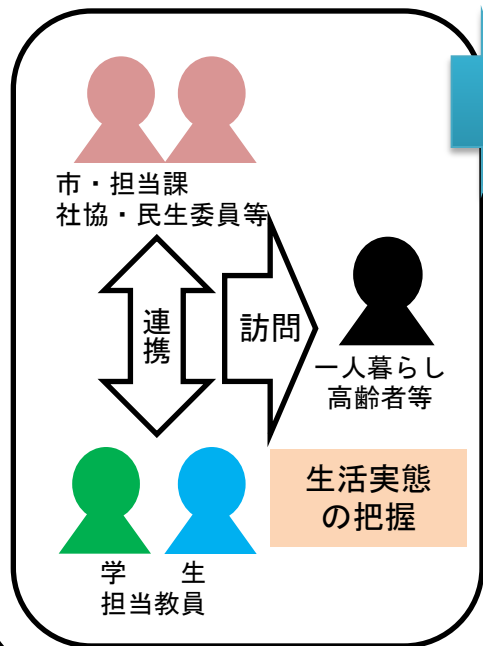
- 事業実施主体: 健康福祉学部 社会福祉学科・スポーツ健康福祉学科
- 事業実施代表: 岡部 由紀夫(社会福祉学科)
- 連携: 西九州大学グループ地域連携センター
健康福祉実践センター、あすなろうセンター
佐賀大学全学教育機構
- 連携自治体等: 佐賀市、小城市

●教育カリキュラムの特徴

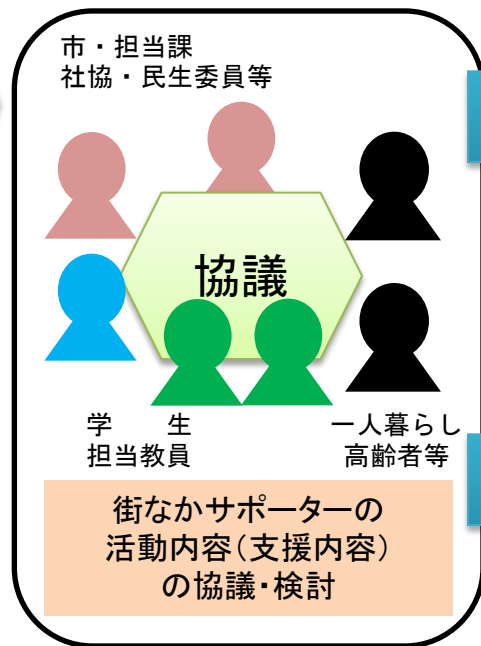
- ①フィールドワーク型アクティブ・ラーニング
- ②地域課題の調査研究
- ③地域住民との交流(ニーズ調査、ワークショップ)
- ④行政、地域住民との協働活動(イベントの開催)
- ⑤研究成果の地域への還元(提案)

●地域志向型教育研究テーマ

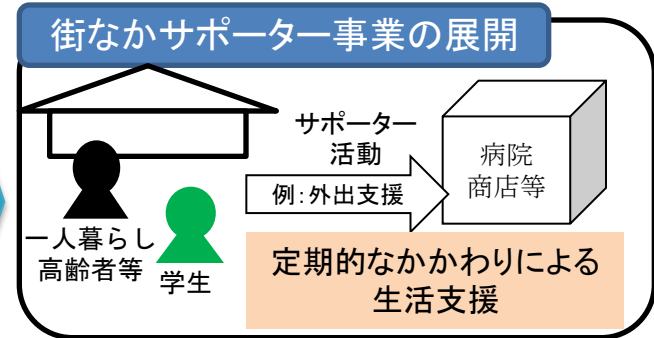
- ・街なかサポーターによる地域生活支援の展開
- ・市民交流による賑わいの創出
→中心市街地活性化に向けた取り組み



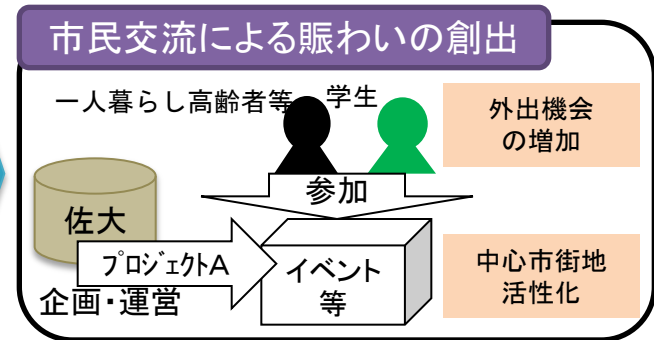
平成26年度



平成27～28年度



平成28年度～





産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト

事業実施主体

西九州大学健康福祉学部

事業実施代表

安田みどり

連携する機関

西九州大学グループ地域連携センター
西九州大学短期大学部
佐賀大学農学部
徐福フロンティアラボ 等

連携する自治体

佐賀市
神崎市
小城市
嬉野市
吉野ヶ里町

事業内容

■食品開発

大学の学生・教員、地域の生産者、企業等とが連携して、地域活性化に繋がるような新商品の開発を行う。

■食品の生理機能性に関する研究

大学、企業等とが連携して、地域の食材および開発した食品の生理機能性に関する研究を行う。



大学発食品



地域住民と連携した交通UDプロジェクト

- 事業実施主体: 健康福祉学部 社会福祉学科・スポーツ健康福祉学科
- 事業実施代表: 酒井 出(社会福祉学科)
- 連携: 子ども学部、西九州大学グループ地域連携センター、あすなろうセンター
佐賀大学工学系研究科都市工学専攻
- 主要授業科目総合ゼミナールⅣ(卒業研究を含む)ほか
- 連携自治体等: 佐賀市・小城市、関連企業
- 地域志向型教育研究テーマ
 - ・ 交通環境の改善・見直し→誰もが利用しやすい交通機能(交通機関)のあり方
車社会の発展や郊外型ショッピングセンターの進出に伴い、中心市街地の機能や公共交通の基盤の弱体化が問題視されるなか、高齢者や障がい者等のいわゆる交通弱者への対応が十分でないことも指摘されている。これに対応すべく、公共交通等の地域課題に対し、利用者へのニーズ調査や停留所やサイン(サイン)等の調査を行い、地域特性に応じた交通機能のあり方について模索する。
- 教育カリキュラムの特徴
 - ① フィールドワーク型アクティブ・ラーニング
 - ② 地域課題(アクセス、バリアフリー、UD等)の調査研究
 - ③ 地域住民との交流(ワークショップ、実地調査)
 - ④ 行政、地域住民との協働活動
 - ⑤ 研究成果の地域への還元(提案)

